

171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

AA

日本ニューズレター No.85

AA 私たちの未来は私たちの責任

第16回ワールドサービスミーティングに参加して



W.S.M. 後期評議員 J.山 宮

10月22日からニューヨークで行われた第16回ワールドサービスミーティング(テーマ:A 私たちの未来は私たちの責任)に参加することができた。報告会でまた詳しく話す機会が持てると思うが、いくらか興奮の収まってきた今の気持ちを、お伝えしたい。

世界27カ国からの評議員が参加し、5日間に渡る会議は熱く、温かく、激しく、そして、すばらしい仲間意識の中で開催された。ミーティングのなかで、AAの一体性が世界の場で確認され、そして昂まって行くのを感じた。

私はニュージーランドで開かれた15回ワールドサービスミーティングに参加しているの、半数近い評議員との再会をともに喜び合うこと、そして、前回のよう緊張感はなく、リラックスした気持ちで参加することができた。経験は大きな力なのだと思う。

初日の始まりはニューヨークGSOスタッフによる12の伝統劇で、次にレッドボール・ミーティングと続く。ミーティングやフェロシップの中で語られる評議員の経験はまさに奇跡のオンパレードであった。

65歳でAAにつながって、若いメンバーのように回復できないと思い込んでいたのが、10年のソーパーを経てWSM評議員としてワールドサービスミーティングに参加することができたと話す仲間。

19年のソーパーの時にスリップし、それから22年の時を経て参加した仲間。

若くしてアルコールクとなり、結婚後妻子に逃げられ20歳でAAとつながって21年のソーパーだと話す仲間。

夫もAAメンバーで、ニューヨークへ来る2週間前にスリップして亡くなったという仲間。

ガンが体中に転移していて施術はできない状態だと穏やかな顔で話す仲間。

とても、今の姿からは想像もできない、AAに来る前に自ら死のうとしていた仲間。

彼らともう一生会えないのかもしれないが、一人一人がこれからずっと私の心の中に生きていくのと思う。

私は2日目の夜に「われわれは変わり行く世界においてどのようにメッセージを運ぶことができるか? アジア・オセアニアにおいて」というテーマでプレゼンテーションをすることになっていた。私が書いた原稿をJSOの山本さんに英訳してもらい、これを私自身が英語で話す事にしたのであるが...。仲間に英語をテープレコーダーに吹き込んでもらって、何度も、何度も練習をした、しかし、どうしても途中でつかえてしまい、スピーチが5分オーバー

になってしまう。頭をひねった結果名案が浮かんだ。イヤフォンで聞きながら話すことにしたのである。ホテルの部屋で一人、何回も練習を繰り返した。

開始時間を勘違いした私がミーティング会場に行くともう始まっていて、最初のスピーカーである私を待ちかまえていた。心を落ち着かせる余裕もなく、前に出てカセットのスイッチをいれた。思い通りに行かないのがアルコールの運命なのか、テープは回らない。あわてふためいてスイッチをカシャカシャ、しかしテープは回ってはいくれない。ここに至って覚悟を決め、運を天に任せて原稿を読み始めることにした。どれだけの時間がかかったのか、ぜんぜんわからなかったが(予定の時間内に収まったとは思えないのだが...)、とにかく最後まで読み終えることができた。

大きな拍手の中、席に戻る間「よかったよ!」「すばらしいよ!」と声をかけられたことを思い出す。一人一人と握手をしながら席に戻って、マラソンの最後の到着ランナーがヨレヨレになってゴールにたどり着いた姿が目には浮かんできた。あの声援にも似た思いだった。しかし今、時間が経って考えると、少し違うのだと思うようになってきた。それは、あの時の評議員たちの声は同じ仲間として経験を分かち合っていたのだと。

オランダの評議員はミーティングの中で「ジュンジが英語で長い時間かかってスピーチしている間、じっと聞いていた評議員の中に一体性を感じたんだ」と話していた。

オーストラリアのケビンが国に戻ってAOSM事務局のアンに「ジュンジが話している時に、すごくスピリチュアルなものを感じた」と話したそうだ。(アンから山本さんに伝わってきたのだが)

言葉の壁はとても高いのは事実だが、このWSM参加で、AAは私に、それを超える力を感じさせてくれたようだ。

最後の日の分かち合いセッションでオランダの評議員から、自国の分かち合いの雑誌が赤字で困っている、どうしたらよいのかと話があった。イギリスからは、やっと黒字になったことが話された。(ニュージーランドではあまりうまくいっていないことが前回話されていた。)

私は日本のBOX916の経験を報告した。メンバー数からいうと多いのかもしれないが、3000部以上の発行を、ほとんどのグループが購入し、日本常任理事会の財務を支える大きな財源になっていることを伝えた。

15年前、グアテマラのWSMに初めて日本から評議員を送り、それから世界のAAの経験と力をいただいて成長してきた日本のAAも、自らの経験を分かち合えるようになって



てきたのだろう。世界中のまだ苦しんでいる人たちにメッセージを、愛の手を届けるために……。私たちがやることは限りなくあるのだろう。AAメンバーであることを誇りとして、今日一日を穏やかに過ごしながら。

今回も同時通訳で私を支えてくれたダグは「自分は地区のサービスに携わっているが、WSMのサービスに役立てることは自分にとって、とても得がたい貴重な経験だ。1年のうちのたった7日間の時間を提供することで日本のAAに役立つのであれば、これからも喜んでやらせていただきたい。」と、言ってくれた。どれだけの感謝をしたらよいかわからないほどである。

とにかく彼の能力は信じられないほどで、日本語・英語

・スペイン語・手話などなど、まるで翻訳の精密機械の様である。心からありがとうを贈らせていただく。

去る6月に皆様にご協力いただいた国際協力献金は
合計¥440,745となったことをご報告いたします。
(献金の用途は以下の通りです。)

国際出版基金	US \$ 1,739.13	187,913円
WSM 献金	US \$ 1,739.13	187,913円
AOSM 献金	AU \$ 1,043.38	64,000円
合計	¥440,745	(送金手数料、電信料を含む)

本当にありがとうございました。

ニューヨークに世界のAAが集まった



9月末、常任理事議長から電話を受け取った。「ニューヨークに行ってくれないか」と。

ミネアポリスやニューヨークで熱心に仲間に通訳の面で世話をやいていた、大阪の前期ワ

ールドサービスミーティング評議員が病に倒れたらしい。

GSOに最終情報を送る締め切り日は10月3日とせまってきた。

私の方で相談すべきは、妻と勤め先。そして、私は1986年と1988年にWSH評議員としてワールドサービスミーティングに参加しているため、輪番制のルールの問題があった。代理とはいえGSOの了解をとること。そして何と言っても国内AAの支持を貰うことが可能なのであった。

ニューヨークのGSOも素早くOKの旨をJSOに連絡して来たり、国内の評議員からも圧倒的な支持を頂いた。この結果を踏まえ、私的な環境も旨く調整され、快くこの仕事をお引き受けする事ができた。

私は5年前、JSOを定年退職した後、アフターケアをよくすれば、そこに勤めていたことが私にもAAにもより良く生きてくると思っていた。そのケアとは、私の場合、JSOから送られてくる議事録や報告書を丹念に読むことだった。東京から移り住んだ農村地帯の長野県でもそれはできた。そのことがこの話をお引き受けするのに随分と力になったようである。

また、この件が起こる前から、国際委員会の第一回会合をJSOで行うと、後期評議員の山宮さんから連絡を受けていた。実際その会合で退職してからの5年間の日本AAが国際的に関わってきたことの詳細を知る事ができたのだから、余裕をもってこのWSMに出席することができたのは幸いだった。

私は前期評議員の代理として、日本AAのハイライトを読んだ。大阪の仲間が書いた格調の高い、丁寧な文章だから、高らかに読み上げられたと思っている。

また、国際出版基金についての全体会議では、初期の日本AAが今よりずっと財政的に逼迫していた時、私は1985年にモントリオールのコンベンションに参加した帰途、ビッグブックと12&12の出版資金を借り入れるため、ニューヨークのGSOを訪問したことを話すことができ、会場の共感を得た。奇しくも、その時の担当のスーザンが今回スタッフとしても参加していた。AAが成熟した国が、出版基金という面でこれからの国を支えていくこと

の大切さを説得力をもって伝えることができた。

また、WSMが終わって理事会の文書委員会のときに、「お祈り」のことを話した。実は、直前の理事会のディナーパーティーのあとのQ&Aが終わって会合を閉める時に、「主の祈り」が使われた。またこの夏のミネアポリスのビッグミーティングを終えるときに、「平安の祈り」ではなく、「主の祈り」を使った。アメリカでは日常的だが、日本では到底受け入れられない。「天にまします…」というお祈りだからだ。常に国際的な会合では、「小さなお祈り」を使うように申し入れた。文書委員会のヴァレリーというセクレタリーも次回の理事委員会で議題にのせると言ってくれた。あとで所長のグレッグにその話をしたところ、ミネアポリスのあと、GSOにも苦情が殺到らしい。

話は違って、理事の方々の昼食会るとき、アメリカの有名なドクターとカナダの矯正関係に長く関わったA頼常任理事の間に椅子が一つ空いていて、それとは知らずにそこに座った。そのドクターの話は山宮評議員に譲るとして、左隣のそのカナダの理事に、「日本でも幾つかの刑務所にメッセージを伝えることが始まったが、AAメンバーの話聞いて、「自分達はそんなに酷くない」という反応がどこでもあって驚いている」と話したところ、彼いわく「どこの国でも同じ事が起こる。万国共通です」という答えにまた一つ、安心感と言うか、この病氣と回復に関しても、世界は一つという思いを実感した。

私の出席任務の議事委員会でも次回の議題について話したが、アルコール以外の摂食障害や薬物などの複合アディションが増え、アルコール以外への依存の量が益々ふえていくことを大きな議題に載せていくことになった。

分かち合いは会議場だけでなく、フロアで、食事の時にと、話題は尽きることなく、実り多き分かち合いができた。私にとって1986年の「グアテマラのWSM」の印象は鮮烈で、追い掛けられるような迫力があつた。今回は私もそれから15年、国内、国外のAAを経験してきた。何を話題に持ち出したら良いか、を考えて分かち合いをする余裕があつたことは、自分でもおどろいている。その実りを総て搾り出し、日本AAに伝えていくことができればと願っている。

最後に同行の山宮後期評議員には細かいところまでお世話になった。これからも永くお付き合いが続いていきそうだ。

(前期評議員代理 林)

WSM評議員の代理参加とWSM報告会のお知らせ

JSO

第5回全国評議会でWSM評議員として承認された野村氏が、今秋、急遽体調を崩され、医師、家族とのご相談の結果、ニューヨークで開催のワールドサービスミーティングへの参加を取り止める決断をされました。

常任理事会では、急ぎ、一名だけの参加にすることや、代理参加などを含めて検討いたしました。

代理参加の諸条件に適應する人材を求めましたが、ご都合がつかず、元WSM評議員の林氏に事情をご説明した所、WSM事務局及び、日本の評議会が元WSM評議員の参加を（もちろんその時限りの参加ではあるが）認めていただけるなら、なんとか調整をつけてみるとの返事をもらいました。

常任理事会は、輪番制は充分承知しているものの、ワールドサービスの大切さも重いものだと考えました。早速、ニューヨークと連絡を取りましたところ、今回限りとの条件で代理参加が認められました。そこで、日本評議会のメンバーに郵送による賛否を問うことにいたしました。

評議会郵送投票の結果、2名のアピールつき（任期、報告書翻訳、などの問題から無理をして参加をしなくてもよいのではないか。）の反対がりましたが、多数決を持って承認されました。

このような経緯をもちまして、山官氏と林氏が第16回WSMに参加することになりました。両氏ともに素晴らしい体験をされたこと聞いておりますので、どうぞ、その報告を楽しみにしていただきたいと思っております。

来年度になって、報告会は7地域に1回ずつお伺いする事になりますが、それぞれの地域の希望日時（単独開催、ラウンドアップ開催時など）をお知らせいただければと考えています。

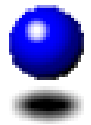
また、野村氏も順調に回復されており、今後の活躍を期待しているところであります。

WSM報告書について

第15回WSM報告書は、第3回AOSMが、'99春にオーストラリアで開催されたので、前年秋のWSMと一緒にの報告書として発行することができました。第4回AOSMは、来秋、韓国で開催予定のために、今回は、WSMだけの報告書として発行することになる予定です。国際協力委員会ボランティアの協力をいただいでできるだけ早期の発行を目指したいと考えています。

2000年・アメリカ・カナダ評議会報告書より

ロイスF GSO退職にあたっての言葉からごく一部を抜粋



1977年にGSOのスタッフになったとき、当時の所長のボブ・ヒッチズにこう訊ねたことを思い出します。

AAにとっての将来の不安材料は何か、それについて彼はどう考えているかと。ボブは“厳格になること”をおおいに心配していると答えました。また、1986年の評議会で、元所長のボブ・ピアソンが話したお別れの言葉のなかでも、彼はAAのなかで“厳格さ”が増すと、つまり、つまらぬあら探しのような質問に対して、かんぺきな回答が要求されるような事態が増えたら増えただけ、AAは大きな危険にさらされるようになって話していました。もちろん私たちは12の伝統、概念、順守事項に要約されたAAの原理にしっかりとしがみついでいく必要があるのは当然のことです。けれどもその“厳格さ”は、自分は間違っていないという一人よがりの思い込みに乗じてはいないだろうかということです。新しく来た人がミーティングで自分のことをどういう病気だと言ったからとか、抗鬱剤を服用しているメンバーはパースディを祝うのにふさわしいかどうか、などということが問題として取り上げられるとき、私たちは自分たちの手で、命を救われたAAの集まりからアルコールクを追い払っているのではないのでしょうか。GSOに対して、AAの伝統をもっと“強要”するようにと要求してくる人が増えています。ビルだったら一体どう対応しただらうかと思うのです。彼をよく知っていた人たちによれば、ビルは心がひろく、寛大で、寛容だったといっています。そして彼のお得意のせりふは、「どのグループにも間違い権利があるんだ」というものだったと。AAのなかでの間違いは、おのずとそのなかで修正されていくのだから強い信念をビルは持っていたのです。（略）今、AAのプログラムとAAに対する私の信頼感がかつてないほど強力なものです。20年前、当時引退したGSO所長のボブ・ヒッチズが彼40年のパースディで私たちのグループで話をしてくれました。（ボブが酒をやめたのは

1940年で、ビルの死後6年間GSOの所長をしていました。その中で、その40年間にAAそのものはほとんど、それどころか、まったく、変わらなかったという印象があると話していました。それは今も同じだと私は信じています。ステップ、伝統、順守事項、概念、これらのものは65年前にさかのぼっても、いつの時代も、現在と同じように、貴重で、分かりやすく、実践に役立つものです。それらのものはすべてが、ミルトン・マックスウェルがよく強調したように、ひとつの霊的な織物の一部なのです。たとえメンバーやグループがその文章を一字一句暗証していなかったとしても、それらの原理は、理解され、意識されています。（略）評議会メンバーである私たち一評議員、常任理事、スタッフは、アルコールクス・アノニマスのなかできわめて重大なリーダーシップの役割を取っています。けれども私たち評議会メンバーが道に迷い、AAのメッセージを運ぶ私たちの活動の中にいつも溢れる、簡潔さ、人を排除しないこと、共通感、愛情といったものを見失うようなことがあったとしても、その評議会メンバーには“AAという船を沈める”力などありません。そんなことができる力のある人間はどこにもいないのです。AAの集まりそのものが私たちを正しい道に引き戻してくれるか、あるいはただ私たち評議会メンバーが無視されるかのどちらかでしょう。

私には何万人ものAAメンバーたちとの出会いがありましたが、これまでにただの一度も、アルコールクス・アノニマスにとって最善のことを望まないメンバーには会ったことがありません。そのことだけでも、私は大きな安心を与えられ、AAの将来に向けてAAの原理を信頼する気持ちが与えられます。心の底から、みなさんのお役に立たせたいと、自分のソプラエティに対し感謝しています。ありがとうございました。



新しいスタッフをご紹介します!

ご存知のように長い間、献身的な業務を続けていただいていた山本さんが諸都合により本年を持って退職されることになりました。山本さんの担っていた業務を引き継いでいただくスタッフとしてJSOに勤務されることになりました城間さんです。誠実な人柄と聡明な頭脳が常任理事会で了承され、11月より業務をスタートいたしました。

どうぞ、メンバーの皆様の暖かいご支援を賜ります様、よろしくお願い申し上げます。

新人です。よろしくお願いします。

11月6日からJSOで働いている新人です。といっても57歳なのですが。名前は城間といい、アルコホーリックです。入院7回(ただし2回は6日、1日という短期ではありましたが)ですからかなり重症です。名前からおわかりの人もいるかもしれませんが、もともとは沖縄の人間です。(生まれは東京)

いま、山本幸枝さんから仕事の引継ぎと同時に、パソコン、出版、翻訳の基本について手ほどきを受けている最中です。日常の業務としては、各種出版物の翻訳や新刊の発行と再版(アメリカ・カナダの評議会承認出版物)発行についての業務、「BOX-916」の巻末のAAカレンダーとJSOコーナーの編集を行います。また評議会、常任理事会、WSM評議員、出版担当理事・評議員の決定や指示を受け、海外特にニューヨークのGSOやAOSM(アジア・オセアニア・サービスミーティング)関係の連絡事務などの業務を担当します。

このほか、JSOへは各種の問合わせや出版物などの注文が電話、ファックス、メールで来ますから、その対応、処理もあります。時にはそれらが英語で来ますのでそれにも応えなくてはなりません。どれも初めての経験で、慣れるには少し時間がかかりそうです。

山本さん、野崎さん、小宮山さん、またボランティアの方からも助けをもらいながら勉強しています。

もう今年も暮れようとしています。今年の初め頃はJSOで働くことになるとは夢にも思っていませんでした。

今年は、わたしにとって関東甲信越の地域サービス

にかかわるようになっての2年目でした。前年の城東地区と地域の経験から、わたしは、なんとしてもサービス活動の「分かち合い」を主体にした地域委員会、



地域集会をつくりあげていかなければと強く思っていました。各地区、各グループのサービスの経験を、地域レベルで共有しようという意気込みがあまりにも弱いのではないかと不満に思っていたのです。文書で改善提案を出したりもしました。ちょうどその頃、JSOで働いてみないかという声がかかったのです。返事をするまでの時間は短かったのですが、実はかなり迷いました。大きなことを言っていながら、不安になってしまったのです。俺には無理ではないかと思ったり、ある部分についてはとても自信家の癖に、別のところではすごいコンプレックスをもっているのです。そして、スポンサー、他の尊敬する2~3の方にも相談し、やらせていただく決意を固めました。地域、地区のほうは任期途中ですから後ろめたさと後ろ髪を引かれる思いの両方を残しながらでした。

振り返ってみれば、私の力、アイデアなど取るに足りないものだったかも知れません。ともかく、地区委員会と地域委員会の両方に多少の迷惑をかける形で降りることになりました。特に、地域で私の副の役割をやってくれていたK君に多大な負担をかけてしまったことを反省しています。(K君どうぞよろしく)

しかし、私は今でも確信しています。「いま苦しんでいるアルコホーリックにメッセージを運ぶ」というAAの主な存在目的に向かって日々の仕事を進めていくには、そのためになされたどんな小さな活動も含め、その経験の分かち合い、交流が決定的に必要なのだということ。グループ、地区、地域、全国レベル、そして国境を越えた国際的なレベルにおいてでもです。燃えるような熱意もエネルギーもそして新しいアイデアもすべてそこから湧き出してくると思うのです。

そして今思うのは、JSOでの仕事の焦点も結局はその一点に向けられているのだということです。ですから持ち場こそ変わり、立場も少し違うけれど、究極的な目的は全く同じであると思っています。

初めてAAに来たときかけてもらった「私も同じだったんだよ。でも、AAをやったらこうなったんだ」という言葉を、わたしはいつも心の中にしまって、新しい仕事をやっていきたいと思っています。

JSO 城間

— AA日本ニューズレターNo. 85 —

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO)

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ：<http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>